

## キャベツ

—— 発病・加害時期  
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏	ま	き							●	▲			
晩	夏	ま	き						●	▲			
秋	ま	き							●	▲			
べ	と	病											
萎	黄	病											
菌	核	病											
黒	腐	・											
根	こ	ぶ											
ア	ブ	ラ	ム	シ									
ハ	イ	マ	ダ	ラ	ノ	メ	イ	ガ					
コ		ナ											
ア	オ	ム	シ	(	モ	ン	シ	ロ	チ	ョ	ウ)		
ハ	ス	モ	ン	ヨ	ト	ウ							
ヨ	ト	ウ	ム	シ	・	シ	ロ	イ	チ	モ	ジ	ヨ	ト
ネ	キ	リ	ム	シ	類								

## べと病

### 留意事項

- 1 低温・多雨での発生が多い。
- 2 QoI剤(11)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、3回以内なので注意する。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤はかぶれやすいので注意する。

### 防除方法

- 1 排水を良好にし、密植を避ける。
- 2 窒素質肥料の多用を避ける。
- 3 被害葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) M3 【400～600倍 30日／3回】
  - ・ [ランマンフロアブル](#) 21 【2000倍 3日／4回】
  - ・ [ピシロックフロアブル](#) U17 【1000倍 前日／3回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) M5 40 【1000倍 14日／2回】
  - ・ [リドミルゴールドMZ](#) M3 4 【1000倍 30日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [メジャーフロアブル](#) 1 1 【2000倍 3日／3回】
- ・ [オロンディスウルトラSC](#) 4 0 4 9 【2000倍 7日／2回】

## 萎黄病

### 留意事項

- 1 夏まきキャベツに発生が多い。
- 2 土壌温度27～30℃の時、発生が多い。

### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 発病株を速やかに処分する。
- 3 耐病性品種（YR）を用いる。
- 4 苗床、本ぽを土壌消毒する。（XⅢ土壌消毒 参照）

## 菌核病

### 留意事項

- 1 菌核が土中に残って伝染源となるので、罹病株は放置せずほ場外へ持ち出す。
- 2 SDHI剤（7）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 連作を避け、田畑輪換を図る。
- 2 なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ベンレート水和剤](#) 1 【2000倍 7日／6回】
  - ・ [セイビアーフロアブル20](#) 1 2 【1000倍 前日／3回】
  - ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【1000～2000倍 前日／3回】
  - ・ [アフェットフロアブル](#) 7 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [パレード20フロアブル](#) 7 【2000～4000倍 前日／3回】

## 黒腐病

### 留意事項

- 1 種子・土壌伝染する。
- 2 9～10月の多雨で低温時に発生が多い。
- 3 キノンドーフロアブルは、水産動植物に強い影響を与える恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 4 薬剤散布は、特に台風や大雨、強風の直後に行うと効果が高い。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 無病種子を用いる。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 被害葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 激発地では、定植時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [オリゼメート粒剤](#) P 2  
 【6～9kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 定植時/1回】
- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [キノンドーフロアブル](#) M 1 【800～1000倍 14日/3回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [バリダシン液剤5](#) U 1 8 【800倍 7日/5回】
  - ・ [アグリマイシン-100](#) 4 1 2 5 【2000倍 14日/2回】
  - ・ [カスミンボルドー](#)、[銅シン水和水剤](#) 2 4 M 1 【1000倍 7日/4回】

## 軟腐病

## 留意事項

- 1 バイオキパー水和水剤は軟腐病菌の拮抗微生物を成分とする。
- 2 薬剤散布は、特に台風や大雨、強風の直後に行うと効果が高い。

## 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 過度の早植えは避ける。
- 3 排水を良好にし、過湿を避ける。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [バイオキパー水和水剤](#) ー (生)  
 【野菜類（除かぼちゃ、ズッキーニ） 500～2000倍 発病前～発病初期/ー】
  - ・ [コサイド3000](#) M 1 【野菜類 2000倍 ー/ー】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [カスミンボルドー](#)、[銅シン水和水剤](#) 2 4 M 1 【1000倍 7日/4回】
  - ・ [スターナ水和水剤](#) 3 1 【1000倍 7日/3回】
  - ・ [バリダシン液剤5](#) U 1 8 【800倍 7日/5回】

## 根こぶ病

## 留意事項

- 1 土壌が乾燥している時に石灰窒素を施用した場合、分解促進のため、かん水を行う。
- 2 オラクル粉剤の成分アミスルブロムの総使用回数は8回以内（但し、苗床での土壌混和は2回以内、かん注は1回以内、本ぼでの土壌混和は2回以内、散布は4回以内）。但し、苗床及び本ぼでの土壌混和それぞれ2回のうち、それぞれ1回は、「おとり植

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

物（葉だいこん、エンバク等）」を栽培する場合であり、その栽培前に土壌混和する場合に使用できる。「おとり植物」の生育期間（1ヶ月程度）及びすき込み後、腐熟させる期間（1ヶ月程度）をおいて、2回目を施用する。

- ランマンフロアブルの成分シアゾファミドの総使用回数は6回以内（但し、育苗期のかん注は1回以内、本ぼでの株元かん注は1回以内、散布は4回以内）。

#### 防除方法

- あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 排水を良好にし、過湿を避ける。
- 石灰質肥料を施用して土壌酸度をpH6.5～7.2に矯正する。
- 石灰窒素（[石灰窒素50](#)【100～200kg/10a は種前または植付前/1回】など）を散布後土壌混和する。
- 過度の早植えは避ける。
- 発病した根は、ほ場から持ち出し、集めて処分する。
- は種または、定植前に下記の薬剤を施用する。

・ [ネビリュウ](#) 3 6

【20～30kg/10a 全面土壌混和 は種または定植前/2回】

【20kg/10a 作条土壌混和 定植前/2回】

・ [オラクル粉剤](#) 2 1

【20kg/10a 全面土壌混和 は種前（苗床）/2回】

【20kg/10a 作条土壌混和 定植前/2回】

【30kg/10a 全面土壌混和 定植前/2回】

・ [ランマンフロアブル](#) 2 1

【500倍 2L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約2.5～7L） かん注 定植前日～当日/1回】

- 本ぼで下記の薬剤を施用する。

・ [ランマンフロアブル](#) 2 1 【2000倍 株元かん注（250ml/株） 14日/1回】

- 苗床、本ぼを土壌消毒する。（XⅢ土壌消毒2（4） 参照）

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 一

【20～30kg/10a は種または定植21日前/1回】

## アブラムシ類

#### 留意事項

- 苗床は寒冷しゃで被覆してアブラムシ類の飛来を防止する。
- スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内（但し、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内）。
- プリロッソ粒剤、ベリマークSC、（コナガの項参照）の成分シアントラニリプロー

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ルの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。

- 4 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

#### 防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。

- ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A

【2g/株 株元散布 育苗期/1回】

【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】

- 2 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。

- ・ [ベリマークSC](#) 2 8

【400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） かん注 育苗期後半～定植当日/1回】

- ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) 4 A

【100倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm・使用土壌約3～4L） かん注 育苗期後半/1回】

- ・ [プリロツソ粒剤](#) 2 8

【50g/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する 育苗期後半～定植当日/1回】

- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2000～4000倍 7日/5回】

- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【3000～4000倍 前日/3回】

- ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C 【2000倍 前日/3回】

### ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

#### 留意事項

- 1 だいこん等あぶらな科作物を加害する。
- 2 8～9月（育苗期～定植直後）の冬キャベツに被害が多い。
- 3 7～10月が高温少雨の年に多発する傾向がある。
- 4 食入前の防除に努める。
- 5 アクタラ粒剤5の成分チアメトキサムの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内）。
- 6 ダントツ粒剤の成分クロチアニジンの総使用回数は3回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内）。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 育苗中の苗は、寒冷しゃ等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 定植には健全苗を使用し、本ぼへの幼虫の持ち込みを防ぐ。
- 3 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [アクタラ粒剤5](#) 4 A  
 【2g/株 株元散布 育苗期後半/1回】  
 【2g/株 植穴処理 定植時/1回】
  - ・ [モスピラン粒剤](#) 4 A 【0.5g/株 株元散布 定植前日～定植当日/1回】
- 4 下記の薬剤を育苗時に、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
  - ・ [ダントツ粒剤](#) 4 A  
 【50g/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 育苗期後半/1回】
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A  
 【50～100倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm・使用土壌約3L） かん注 定植前日～定植時/1回】
  - ・ [プリンス粒剤](#) 2 B  
 【20～30g/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約3～4L） 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する は種時～定植前/1回】
  - ・ [プリロツソ粒剤](#) 2 8  
 【50g/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する 育苗期後半～定植当日/1回】
  - ・ [プレバソンフロアブル5](#) 2 8  
 【100倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） かん注 育苗期後半～定植当日/1回】
- 5 発生初期に、薬液が芯葉にかかるよう丁寧に散布する。
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1000～2000倍 前日/3回】
  - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日/2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 7日/2回】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1000～2000倍 前日/3回】
  - ・ [グレーシア乳剤](#) 3 0 【2000～3000倍 7日/2回】

## コナガ

## 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。



- 2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
- 3 あぶらな科野菜を加害するほかナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどのあぶらな科雑草にも寄生する。
- 4 セル成型苗では、定植前に粒剤を株元散布すると省力的に防除できる。
- 5 ダントツ粒剤の成分クロチアニジンの総使用回数は、3回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内）。
- 6 プリロッソ粒剤、ベリマークSCの成分シアントラニリプロールの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。

#### 防除方法

- 1 フェロモンディスペンサーを利用する。3ha以上の集団産地では、コンフューザーV、コナガコンープラス、コナガコンを設置すると発生を抑制できる。
  - ・ [コンフューザーV](#)  
【野菜類 100～200本／10a（41g／100本製剤） 対象作物の栽培全期間】
  - ・ [コナガコンープラス](#)  
【コナガ、オオタバコガ、ヨトウガが加害する農作物等 100～120本／10a（22g／100本製剤） 対象作物の栽培全期間】
  - ・ [コナガコン](#)  
【コナガ、オオタバコガが加害する農作物等 露地：100～110m／10a（100mリール）または200本／10a（20cmチューブ） 加害作物栽培の全期間】
- 2 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ダントツ粒剤](#) 4 A  
【0.5g／株 株元処理 育苗期後半／1回】  
【2g／株 植穴処理土壌混和 定植時／1回】
- 3 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
  - ・ [ベリマークSC](#) 2 8  
【400倍 0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5L～4L） かん注 育苗期後半～定植当日／1回】
  - ・ [プリロッソ粒剤](#) 2 8  
【50g／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する 育苗期後半～定植当日／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アファーム乳剤](#) 6 【1000～2000倍 前日／3回】
  - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1000倍 前日／3回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [グレーシア乳剤](#) 3 0 【2000～3000倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [プロフレアSC](#) 30 【2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [BT剤](#) 11A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

## アオムシ

### 留意事項

- 1 幼虫による被害の著しいのは春と秋である。
- 2 アオムシに対する薬剤の効果は高いのでコナガ、ヨトウムシ類などと同時防除を行う。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ベネビアOD](#) 28 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1000～2000倍 前日／3回】
  - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ [トレボン乳剤](#) 3A 【1000～2000倍 3日／3回】
  - ・ [グレーシア乳剤](#) 30 【2000～3000倍 7日／2回】
  - ・ [BT剤](#) 11A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

## ハスモンヨトウ

### 留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）にかん注処理する。
  - ・ [ジュリボフロアブル](#) 4A 28  
 【200倍 0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 育苗期後半～定植当日／1回】
  - ・ [ベリマークSC](#) 28  
 【400倍 0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 育苗期後半～定植当日／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1000～2000倍 前日／3回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 7日／2回】
  - ・ [プロフレアSC](#) 30 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [グレーシア乳剤](#) 30 【2000～3000倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。



- ・ **BT剤** 1 1 A (IX野菜類の病害虫 3野菜類 参照)

## ヨトウムシ

### 留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ **アフーム乳剤** 6 【1000～2000倍 前日／3回】
  - ・ **ディアナSC** 5 【2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ **プレオフロアブル** UN 【1000倍 7日／2回】
  - ・ **アディオン乳剤** 3 A 【2000倍 3日／5回】
  - ・ **BT剤** 1 1 A (IX野菜類の病害虫 3野菜類 参照)

## シロイチモジヨトウ

### 留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 2 コナガ、ハスモンヨトウなどと同時防除を行う。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ **コテツフロアブル 劇** 1 3 【2000倍 前日／2回】
  - ・ **スピノエース顆粒水和剤** 5 【2500倍～5000倍 3日／3回】
  - ・ **BT剤** 1 1 A (IX野菜類の病害虫 3野菜類 参照)

## ネキリムシ類

### 留意事項

- 1 ネキリムシ類とはカブラヤガ、タマナヤガ、シロモンヤガ、センモンヤガの幼虫の総称で、被害の大部分は、カブラヤガもしくはタマナヤガによる。

### 防除方法

- 1 被害を認めたら下記の薬剤を施用する。
  - ・ **ダイアジノン粒剤5** 1 B  
 【4～6kg／10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時または定植時／2回】  
 【6kg／10a 土壌表面散布 定植時／1回】
  - ・ **フォース粒剤 劇** 3 A 【4kg／10a 全面土壌混和 定植時／1回】
  - ・ **デナポン5%ベイト** 1 A 【3～6kg／10a 株元散布 14日／3回】
  - ・ **アクセルベイト** 2 2 B 【3～6kg／10a 株元散布 7日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。